

# 認知症イノベーションアライアンスワーキンググループ 令和7年度 第2回 事務局資料

## 今後の認知症イノベーションアライアンス ワーキンググループの取組について

経済産業省 ヘルスケア産業課

# 今年度の取組状況等の報告

# 認知症イノベーションアライアンスWG：令和7年度協議内容

- 認知症イノベーションアライアンスWGは、認知症の人の尊厳・想いを尊重しながら、産業、公的機関、医療、福祉等さまざまなステークホルダーと連携し、イノベーション創出に向けた検討を行う場であり、主に以下の①②③の取組を推進。令和7年度は特に①当事者参画型開発モデルの推進について進捗を報告し、必要とされる施策等について議論。

## 令和7年度委員選定および開催日程・方法

- 座長 … 国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 所長 岩坪 威
- 委員 … 25名（学識、企業、当事者等）
- オブザーバー … 厚生労働省等
- 第1回：令和7年9月16日@ウェブ開催
- 第2回：令和8年2月25日@ウェブ開催

## 認知症イノベーションアライアンスWG（事務局：経産省、日本総研）

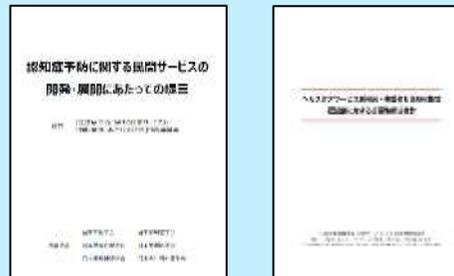
### ①当事者参画型開発モデルの推進

#### オレンジイノベーション・プロジェクトの推進



### ②認知症予防市場の環境整備

#### 認知症関連6学会による「提言」や「指針」の整備



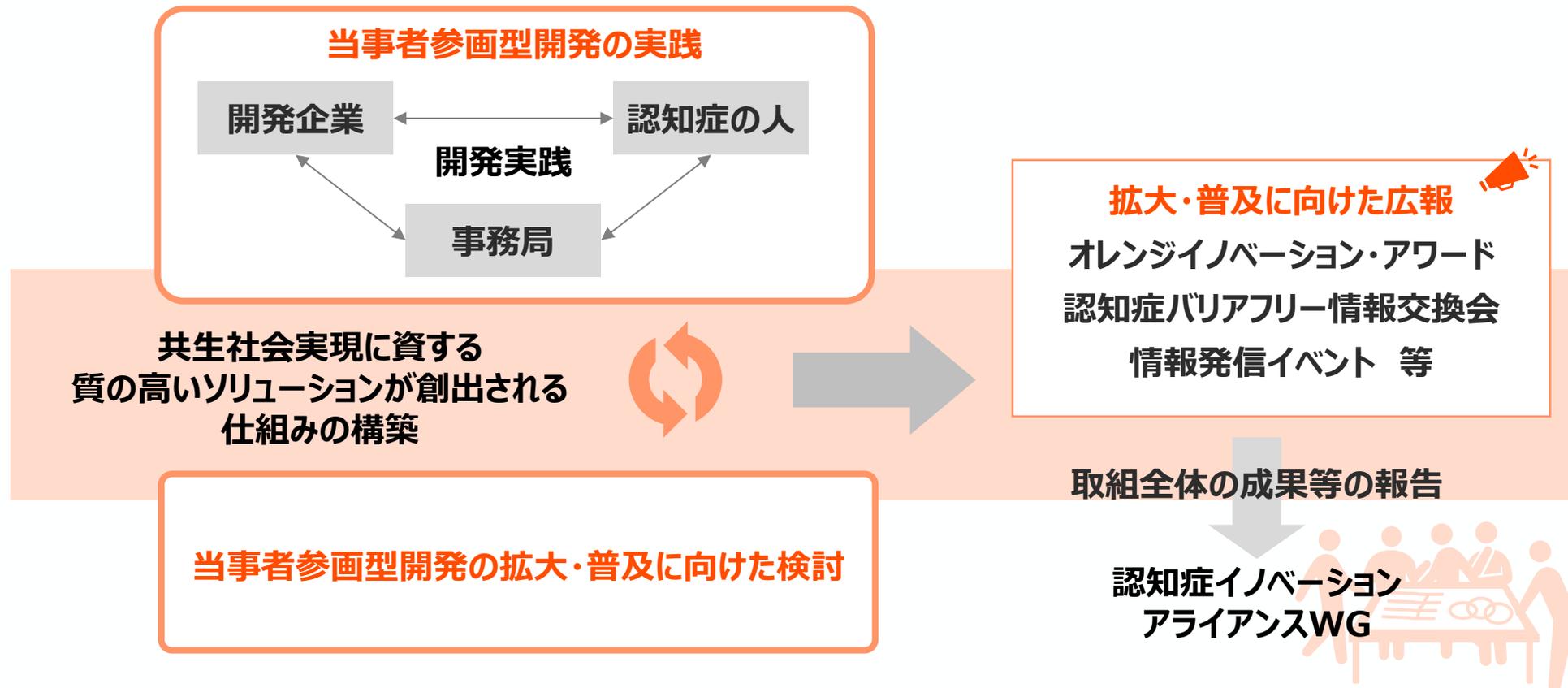
### ③研究開発の促進

#### 共生・予防等に関してエビデンスを構築する実証事業を支援



# ① 当事者参画型開発モデルの推進

- 認知症の人が企業の開発プロセスに「参画」し、企業とともに新しい価値を生み出す「共創」を行う「当事者参画型開発（＝オレンジイノベーション・プロジェクト）」を推進。
- 過年度に引き続き持続的な仕組みの実現に向け、プロジェクトの一層の継続・拡大に向けた取組を実施。



## ② 認知症予防市場の環境整備

- 過年度に策定した「認知症予防に関する民間サービス開発・展開にあたっての提言」及び「ヘルスケアサービス利用者・事業者も使用可能な認知症に対する非薬物治療指針」の普及啓発等を国立研究開発法人日本医療研究開発機構と連携して継続的に実施。

### 本年度実施事項

#### 認知症関連学会における 普及啓発活動

- 第44回日本認知症学会学術集会においてはミニシンポジウムで、「提言」や「指針」の活用により目指す社会等に関する講演を実施。

#### 企業・自治体等に 対する普及啓発活動

- 広く本分野に関心のある企業や自治体担当者、専門職等に対して、「認知症・フレイル予防のためのヘルスケアサービスを選ぶワークショップ（国立研究開発法人日本医療研究開発機構主催）」を開催。

### ③ 研究開発の促進

予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業（エビデンス構築促進事業・ヘルスケア社会実装基盤整備事業）

- 認知症を含むヘルスケアサービスが科学的エビデンスに基づいて社会実装されるには、「行動変容のエビデンス構築」、「エビデンス整理」、「実用化を見据えたサービス開発」の各ステップに課題があり、日本医療研究開発機構（AMED）を通じて早期フェーズでの研究事業を支援。

#### 行動変容のエビデンス構築（令和 5~7年度）

【課題】医薬品等に比較して非薬物的介入はエビデンスが不十分

① 認知予備力説に基づく介入の組み合わせによる最適化の検証

- 神戸大学 古和班
- 慶應義塾大学 三村班

② デジタル技術を活用した早期検知技術の開発

- 日本テクトシステムズ株式会社 木之下班

③ 生活接点の場における効果検証

- 東京都健康長寿医療センター 岡村班
- 東京都健康長寿医療センター 鈴木班
- 国立長寿医療研究センター 大沢班

#### エビデンス整理（令和 4~6年度）

【課題】蓄積したエビデンスをオーソライズする機能がない

#### 医学会による指針の策定



研究代表  
高知大学 教授 数井 裕光

#### <関連 6 学会>

日本認知症学会      日本老年精神医学会  
日本神経学会      日本神経治療学会  
日本精神神経学会    日本老年医学会

日本医療研究開発機構  
(AMED)

研究  
支援

# 当事者参画型開発の取組の目的

- 認知症の人が企業の開発プロセスに「参画」し、企業とともに新しい価値を生み出す「共創」を行う「当事者参画型開発（=オレンジイノベーション・プロジェクト）」を推進。
- 本取組の目的は、共生社会の実現に資する質の高いソリューションが創出される仕組みの構築。

## 当事者参画型開発の取組み



## 本取組における「当事者参画」、「参画」、「開発」の定義・考え方

- 本取組における「当事者参画」とは、「製品やサービスに対するニーズをもつ **認知症の人自身が、協力の意思を持って**、それらの製品・サービスの開発プロセス（企画、実施、評価等）に『参画』すること」と定義する。
- **認知症の人の主体的な協力意思を伴わない、一方的な観察や意見聴取は「当事者参画」とは言えない。**
- 「認知症の人のニーズを反映した製品・サービス」であること条件として、認知症の人の意見が製品・サービスの「コアあるいはそれに近い部分」への反映を意図したものである必要がある。
- ここでの「開発」は**新しい製品・サービスの創出だけでなく、既存の製品・サービスを認知症の人の意見をもとに改良することも含む。**

# 実現したい社会像および必要な事項

- 令和6年度に日本認知症本人WG、認知症の人と家族の会との意見交換や本イノベーションアライアンスWGでの議論等を通じて、本プロジェクトによって実現したい「社会像」およびその「社会像の実現に向けて必要なこと」を下記のとおり整理した。本整理を念頭に、具体的な取組を推進している。

## オレンジイノベーション・プロジェクトによって実現したい社会像

認知症の人のニーズや経験を反映した製品・サービスが身近にあり、  
誰もが、自分の力や個性を活かしながら、大切にしたい暮らしを続けることができる社会

## 上記の社会像の実現のための必要な事項

- ① 多様な認知症の人が企業の開発に安心して参画し、声や思いを伝えることができること
- ② さまざまな地域で当事者参画型開発が実践されており、多くの認知症の人が開発に参画する機会があること
- ③ 認知症の人と企業の関係が「単発のもの（＝聞きっぱなし）」ではなく、適切なフィードバックが行われる「継続的なもの」であること
- ④ 認知症の人やその家族等の日々の生活に関わる多様な企業が当事者参画型開発を行っていること
- ⑤ 認知症の人とともに開発した製品・サービスにより、企業が十分な収益を上げることができていること
- ⑥ 自分にあった製品・サービスを認知症の人やその家族等が日々の生活の中で気軽に購入・利用することができること

# 【参考】 認知症施策推進基本計画における位置づけ

- 令和6年12月3日に閣議決定された「認知症施策推進基本計画」において、認知症の人と家族等が企業の開発活動に参画することについて、基本的施策および重点目標の一部として盛り込まれている。

## Ⅲ 基本的施策

### 2. 認知症の人の生活におけるバリアフリー化の推進

#### (4) 認知症の人にとって利用しやすい製品・サービスの開発・普及の促進

日本認知症官民協議会による官民連携の下、認知症の人と家族等が参画した、認知症の人が地域で生活する上で利用しやすい製品・サービスの開発・普及を促進するため、モデル的取組を好事例として展開し、そうした取組が自主的、継続的に進むよう取り組む。

#### 【重点目標3】

認知症の人・家族等が他の人々と支え合いながら地域で安心して暮らすことができること

プロセス指標	アウトプット指標	アウトカム指標
<ul style="list-style-type: none"> <li>部署横断的に認知症施策の検討を実施している地方公共団体の数</li> <li>認知症の人と家族等が参画して認知症施策の計画を策定し、その計画に達成すべき目標及びKPIを設定している地方公共団体の数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>就労支援も含めて個別の相談・支援を実施していることを明示した認知症地域支援推進員や若年性認知症支援コーディネーターを設置している地方公共団体の数</li> <li>認知症バリアフリー宣言を行っている事業者の数</li> <li>製品・サービスの開発に参画している認知症の人と家族等の人数</li> <li>基本法の趣旨を踏まえた認知症ケアパスの作成・更新・周知を行っている市町村の数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いを伝えることができる家族、友人、仲間がいると感じている認知症の人の割合</li> <li>地域で役割を果たしていると感じている認知症の人の割合</li> <li>認知症の人が自分らしく暮らせると考えている認知症の人及び国民の割合</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>医療・介護従事者に対して実施している認知症対応力向上研修の受講者数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症疾患医療センターにおける認知症関連疾患の鑑別診断件数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症の人の希望に沿った、保健医療サービス及び福祉サービスを受けていると考えている認知症の人の割合</li> </ul>

# 本年度（令和7年度）の企業・団体等の参画状況

- 本プロジェクトは、令和2年度に検討を開始し、認知症の人とともに生活課題の解決ややりたいことの実現に資する製品・サービスの開発に取り組む企業・団体を対象とした開発の支援を継続的に実施。
- 今年度は、58の企業・団体を採択した（令和2～4年度：5社⇒令和5年度：20社⇒令和6年度：46社）。

※外部有識者からなる審査会（非公開）において採択可否を検討

## 令和7年度 オレンジイノベーション・プロジェクト 実践企業・団体（58企業・団体）



# 各社が開発している製品・サービスの概要（1 / 4）

- 各社は、多様な生活課題を対象に当事者参画型開発を実践。 ※令和7年度からの新規企業は赤字

生活課題	企業・団体名	開発している製品・サービスの概要
衣服・靴	株式会社大翻	かかとも、左右・前後ろもない、履き口がわかりやすい靴下「Unicks」
	株式会社チヨダ	手を使わずに、立ったまま、スパッと履ける「スパットシューズ」
	豊島株式会社	当事者が使いやすい衣料品、日用品
	株式会社フェリシモ	片手で扱えるシャツ・アクセサリ・裏表前後のないきれいめパンツ
	YKK株式会社	誰もが簡単に開閉・着脱ができるファスニング商品
	株式会社kittoi	車いすユーザーが開発した誰でも着やすく、動きやすい割烹着
食・料理	株式会社デニーズジャパン	当事者の声を踏まえた、ファミリーレストラン「デニーズ」のメニューブックなどの改良
	西部ガス株式会社	誰でも安心して使えるガスコンロ「SAFULL+（セイフルプラス）」
	リンナイ株式会社	
生活・住環境	TOTO株式会社	多様な利用者に配慮したパブリックトイレ
買い物・小売	株式会社イトーヨーカ堂	誰にとっても使いやすい「みんなのパジャマ/ステッキ/ルームシューズ」
	KAERU株式会社	使いすぎ防止やワンタッチカード停止などの機能を搭載したキャッシュレスサービス「KAERU」
移動	トヨタ自動車株式会社	誰もが不安なく外出できる徒歩用道案内サービス「ツギココ」
	LOOVIC株式会社	ご本人と身近な人でつくる、コエを用いた安全・安心の外出を支援する無人ナビガイド
口腔ケア	ライオン株式会社	生涯を通じて、よく食べ、話し、笑い、自分らしく居続けられるために役立つ製品・サービス

# 各社が開発している製品・サービスの概要（2 / 4）

- 前頁の続き。

生活課題	企業・団体名	開発している製品・サービスの概要
運動・身体活動	株式会社CogSmart	脳と身体の健康のため、自分の好きな運動や身体活動をサポートする「BrainUp」アプリ
	株式会社ルネサンス	五感からの刺激や身体を動かすことで、楽しく、笑顔で脳を活性化する「シナプロジー®」や軽運動
生活支援全般	アデッソ株式会社	日付・曜日の表示が大きい「デジタル日めくりカレンダー」
	株式会社コスモテック	いつでもどこでもメモができ、自然に目に入って思い出せる、手首に巻きつける“身につけるメモ帳”「wemo」
	株式会社ソフトデバイス	スケジュール管理を支援する「日めくりカレンダーアプリ yottey(ヨッテイ)」
	株式会社マグエバー	強力なネオジム磁石を安全に使用できるようにシリコン樹脂でコーティングした製品「シリコンマグネット」
	丸光産業株式会社	「じぶんケア」を第一とした、縫製と介護のかけあわせで生まれた新しいトータル介護ブランド
金融・財産管理	株式会社三井住友銀行	三井住友銀行の銀行員がコンシェルジュとなる等、皆さまの「年を重ねる」をもっと豊かになるようサポート
	株式会社太陽生命少子高齢社会研究所	「認知症保険の太陽生命」においてより良いサービスを効果的にお客様にご紹介する仕組みの検討
美容・衛生	株式会社北國銀行	シンプルな機能と操作性でどなたでもスムーズに利用できる自社開発ATM「ホックタッチ」
	牛乳石鹼共進社株式会社	コップ一杯の水で爽快な湯あがりを提供する『YUAGARI』 ポータブル洗髪機&洗浄剤
	一般社団法人日本介護美容セラピスト協会	どなたでも、いくつになっても、使いやすい・続けやすい高保湿スキンケア「momote（モモテ）」
旅行	株式会社ナチハマ	チカラもいらず、水だけで洗える介護用タオル「ハダピカイゴ」
	株式会社小谷常	ユニバーサルツーリズムを提供する旅館「水屋敷」での宿泊サービスと就労支援
	豊橋鉄道株式会社	安心して楽しめる日帰りバスツアー
	合同会社トラベルケアふくおか	介護タクシー／介護付き旅行／心で伝える福岡ツアー 認知症の方がガイドする、やさしい旅のかたち

# 各社が開発している製品・サービスの概要（3 / 4）

- 前頁の続き。

生活課題	企業・団体名	開発している製品・サービスの概要
コミュニケーション・交流	象印マホービン株式会社	家族が離れて暮らしていても、安心して一人で生活するための支援サービス
	ユカイ工学株式会社	予定のお知らせなど、日々の暮らしを声でサポートする可愛いロボット「BOCCO emo（ボッコ エモ）」
	ユニバーサル・サウンドデザイン株式会社	独自の特許技術「SoninBrain」を採用した聴覚支援機器「コミュニケーション」「コミュニケーションポケット」
	ノックオンザドア株式会社	同じ境遇の仲間や悩みを相談できる専門家と繋がることのできるオンラインサービス
	Hubbit株式会社	認知症の方も利用できる話せる伝言板「ケアビー」
	株式会社ビークル	日々のできごとを写真とセットで記入して、記憶を手帳に記録する形で保持する「おぼえている手帳」
	みまもりあいプロジェクト	「地域共生支援アプリ」を活用した、1人でいても、ひとりぼっちにしない「福祉SNS」
	GROOVE X株式会社	お世話をすることで日常の楽しさを増やし、ゆるい見守りも可能な家族型ロボット「LOVOT[らぼっと]」
	株式会社再春館製薬所	認知症インクルーシブな通信販売コミュニケーションの構築
	積水メディカル株式会社	AI電話応答により寂しさと不安を和らげ、家族とつながる支援サービス
	TOPPANデジタル株式会社	黒電話型のAIと音声で会話を行うコミュニケーション支援サービス
	ファーマライズ株式会社	近所の薬局から全国の認知症カフェに参加できるサービス「カフェにやーまらいうず」
リモートロボティクス株式会社	ヤングケアラー等への就労機会提供、施設職員の負担軽減、高齢者の孤独・不安の解消を実現するサービス	

# 各社が開発している製品・サービスの概要（4 / 4）

- 前頁の続き。

生活課題	企業・団体名	開発している製品・サービスの概要
趣味・学び	株式会社welzo	「老いるを楽しむ」社会の実現に向けた園芸サービスとユニバーサルデザインの園芸グッズ
	株式会社さくらほりきり	誰もが簡単に完成度の高い作品が作れる手作りキットと、好きな時に見られる作り方の動画サービス
	株式会社第一興商	誰もが一緒に楽しめる音楽コンテンツサービス「FREE DAM」
	大塚製薬株式会社	当事者の理解を深めるための体験型介護支援VRトレーニングプログラム「FACEDUO（フェイスデュオ）」
	株式会社テコデコドリーム研究所	思い出の写真と楽しい会話でふたたび輝く人生まるごと回想アルバム
	株式会社朝日カルチャーセンター	認知症とともに生きるご本人の思いを「本人視点」で理解し、ともに暮らしていく社会を考えるプログラム
	株式会社グローバー	専門講師と「楽しみ」や「生きがい・やりがい」を共有できるものづくり教室「テココロ」
	一般社団法人司延子モダンバレエ	懐かしい音楽に合わせて踊ることを楽しむ、誰もが安心して楽しめるダンスプログラム
	東和薬品株式会社	AI活用による懐かしい音楽の自動配信を通じた、「人生の物語を可視化・記録」するWell-being支援サービス
その他	経済産業省	認知症の人と企業が製品を共創する「オレンジイノベーション・プロジェクト」等、認知症啓発活動
	株式会社COCO・WA・DOCO	電話に後付けできる特殊詐欺防止・生活支援システム（仮称）
	株式会社主婦の友社	認知症当事者とその家族の理解を深めるためのコンテンツ発信
	ソフトバンク株式会社	認知症などによる行方不明者の検索アプリ「オレンジセーフティネット」

# パートナー団体の拡大 認知症の人等の参画状況

- 日本認知症本人WG、認知症の人と家族の会、厚生労働省と連携し、開発に参画する認知症の人の募集にご協力いただくパートナー団体（自治体、介護事業者、医療機関、当事者団体）等の拡大に向けた取組を実施。
- 令和6年度以降、認知症の人641名、家族・支援者等385名の計1,026名が開発活動に参画。

※令和6年4月から令和8年1月末時点までの実績値、延べ人数

**近畿**  
認知症の人188名  
家族・支援者等57名

- 自治体**
- 京都府
  - 兵庫県太子町
  - 三重県四日市市
- 介護事業者**
- 特別養護老人ホーム 六甲の館
  - 北区在宅デイサービスセンター かみやま倶楽部
  - 有限会社アルサ会 おもいで郷
- 医療機関**
- 京都府こころのケアセンター  
若年性認知症支援チームおれんじブリッジ
  - 社会福祉法人恩賜財団大阪府済生会千里病院
- 当事者団体等**
- 地域共生開発機構 ともつく
  - レイの会
  - NPO法人認知症の人とみんなのサポートセンター
  - ひょうご認知症希望大使活動パートナー
  - 特定非営利活動法人四日市Dサポート
  - 若年性認知症本人交流会おれんじサロンひと・まち  
(社会福祉法人京都市社会福祉協議会 京都市長寿すこやかセンター運営)

**中国**  
認知症の人39名  
家族・支援者等18名

- 自治体**
- 鳥取県鳥取市

**九州**  
認知症の人28名  
家族・支援者等24名

- 自治体**
- 福岡県福岡市
  - 福岡県宗像市
  - 大分県
- 介護事業者**
- ケアグループなでしこ
  - 社会福祉法人水光会  
しらぬい荘デイサービスセンター

- 当事者団体等**
- JDWG
  - 認知症の人と家族の会

**北陸・東北**  
認知症の人31名  
家族・支援者等15名

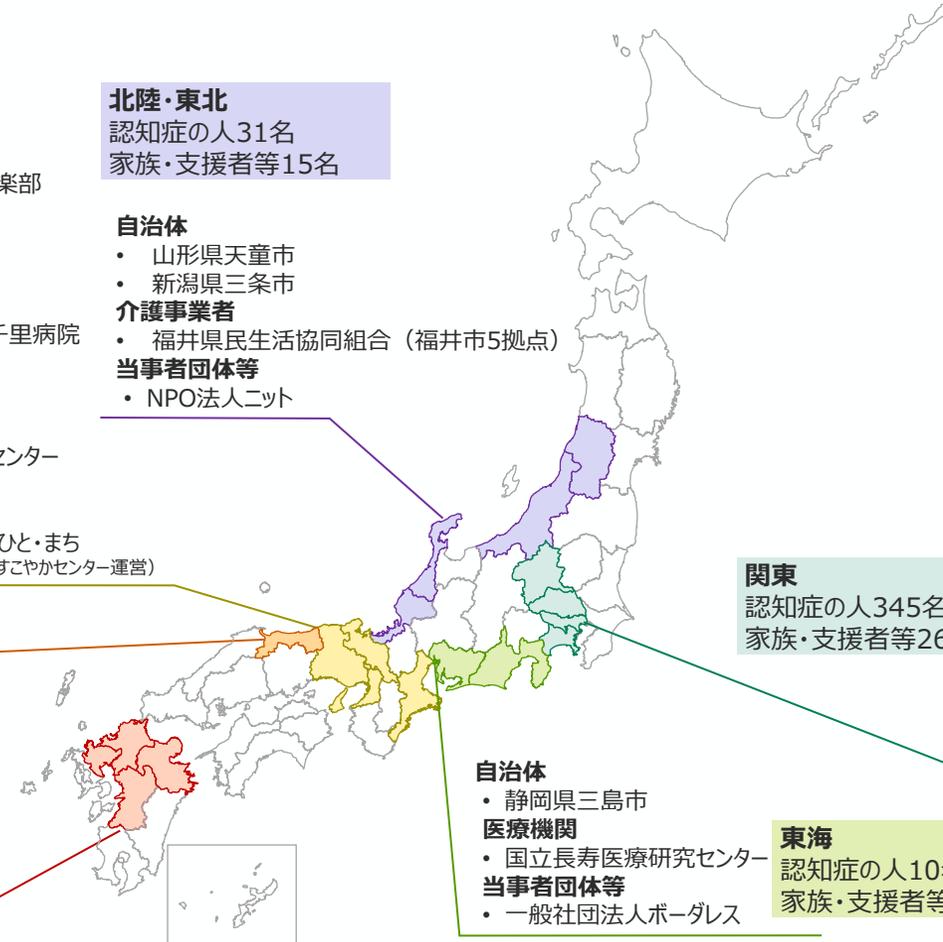
- 自治体**
- 山形県天童市
  - 新潟県三条市
- 介護事業者**
- 福井県民生活協同組合（福井市5拠点）
- 当事者団体等**
- NPO法人ニット

**関東**  
認知症の人345名  
家族・支援者等261名

- 自治体**
- 静岡県三島市
- 医療機関**
- 国立長寿医療研究センター
- 当事者団体等**
- 一般社団法人ボーダレス

**東海**  
認知症の人10名  
家族・支援者等10名

- 自治体**
- 東京都品川区、八王子市、日の出町
  - 埼玉県さいたま市
  - 神奈川県
  - 神奈川県大和市、横須賀市
- 介護事業者**
- 有限会社ハピア オレンジカフェハルハ
  - 100BLG株式会社
  - NPO法人シニアライフセラー研究所『亀吉』
  - 社会福祉法人池上長寿園  
大田区若年性認知症支援相談窓口
  - 社会福祉法人東京栄和会 なぎさ楽苑
  - HYS Space
- 障害福祉事業者**
- 社会福祉法人東京コロニー 東京都大田福祉工場
- 医療機関**
- 東京医科大学病院 認知症カフェ「認茶屋」
  - オレンジほっとクリニック
- 当事者団体等**
- NPO法人マイway
  - リンカフェ
  - さいたま市認知症フレンドリーまちづくりセンター
  - わすね草の会
  - 一般社団法人ユニオン
  - 一般社団法人Dフレンズ町田
  - ミモザ  
(東京都武蔵野市の若年性認知症の仲間と家族の交流の会)
  - NPO法人いきいき福祉ネットワークセンター



# 学生団体と連携した取組の実施

- 当事者参画型プロダクト開発を行っている学生団体（TOM JAPAN）と大阪市内で介護事業を展開する事業者（かみやま倶楽部）と連携し、認知症の人と学生の共創によるプロダクト開発企画を実施中。

## かみやま倶楽部との実践

1

【継続実施中】  
ボランティア訪問

- ボランティア訪問を月1～2回実施
- 本取組にて開発に参画する認知症の人への個別ヒアリングも実施。

2

【実施済み】  
困りごと共有WS

- 個別ヒアリングから抽出された「困りごと」の解決方法を話し合うワークショップを実施予定。
- 参加者は認知症の人10名程度。

3

3Dプリンタによる  
プロトタイプ製作・  
製品開発

- ②から生まれたアイデアをもとに、3Dプリンタを使用したプロトタイプ製作・製品開発を実施予定。
- 認知症の人とトライアルしながら共創する想定。

### みんなでつくる 暮らしのアイデア

目的：日常生活の困りごとや工夫のアイデアを認知症の方と学生で共有する

12月18日(木) 13:30～15:00

13:30 グループ分け・自己紹介  
WSの説明

13:45 困りごと：お風呂  
・テーマ(困りごと)を説明。既存製品の提示  
・グループで類似体験・暮らしの工夫を共有  
・プロダクトへの意見・改善点を検討

14:30 全体で共有

14:45 振り返り・まとめ

困りごと お風呂

シャンプーを使ったか忘れる

お風呂で頭を洗う時にシャンプーやリンスを使うことを忘れることがある。



### グループワークの進行

お風呂に関する困りごとについて段階的にテーマを設定

⇒各テーマごとに時間を区切って意見を聴取する(各テーマ10～15分間)

テーマ①：「シャンプーやリンスを使い忘れる」場合の対処法

- ・シャンプーを使い忘れないようにするには？
- ・使用済みかどうか分かる方法は？

テーマ②：「1回分ずつに分けられた製品」はどう？

- ・アメニティのような個包装のものは使える？
- ・小さいボトルに詰め替えると使用量が分かりやすい？

テーマ③：「誰でも使いやすいボトル」はどんな形？

- ・上から出るボトルやチューブタイプは使える？
- ・片手でも使えるボトルはどんなもの？

実際に製品を見て  
触りながら  
アイデアを考える



# 情報発信：認知症バリアフリー情報交換会

- 厚生労働省と共催で、認知症バリアフリー情報交換会を令和7年11月21日に開催し、企業、自治体、認知症の人や家族等、計323名（内、現地118名）が参加した。

<b>日時</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2025年11月21日（金）</li> <li>企業展示：13時00分～14時00分</li> <li>情報交換会：14時00分～16時00分</li> <li>交流会：16時10分～17時00分</li> </ul>
<b>会場</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>TKP新橋カンファレンスセンター ホール16C・D</li> </ul>
<b>参加者</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報交換会：323名</li> <li>現地会場参加者：118名（登壇者、関係者含む）</li> <li>オンライン参加者：205名（事前申込者ベース）</li> <li>出展企業数：16社</li> </ul>

演題	登壇者（敬称略）
厚生労働省における認知症関連施策の動向	厚生労働省 老健局 認知症総合戦略企画官 野村晋氏
経済産業省における認知症関連施策の動向	経済産業省 商務・サービスグループ ヘルスケア産業課 企画官 小野聡志氏
本人から企業へのメッセージ	一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ 山中しのぶ氏、藤田和子氏 かながわオレンジ大使（認知症本人大使） 前田博樹氏
認知症バリアフリー企業へのメッセージ	公益社団法人 認知症の人と家族の会 和田誠氏
企業の実践事例の紹介	一般社団法人 全国コープ福祉事業連帯機構 本木時久氏
	株式会社福井銀行 伊藤浩美氏
	四日市市介護予防等拠点施設 ステップ四日市 上田奈央氏 四日市市在住 北原浅雄氏
	一般社団法人 日本介護美容セラピスト協会 酒井宗政氏



# 情報発信：その他の活動等（1/2）

- 市民への普及啓発および企業のPR等を目的として、日本認知症官民協議会 認知症イノベーションアライアンスWG 事務局（経済産業省）主催もしくは協力の情報発信イベントを全国で開催した。

## 京都劇場 令和7年9月19日(金)

主催：司延子モダンバレエ  
後援：京都市

## 大和市文化創造拠点シリウス 令和7年9月25日(木)

共催：大和市  
後援：神奈川県

## さいたま市生涯学習総合センター 令和8年1月24日(土)

主催：埼玉大学・さいたま市・国立大学協会  
後援：埼玉県・埼玉県立大学 等

# 情報発信：その他の活動等（2/2）

- 2月25日-27日には「Care Show Japan」に出展予定。加えて、周知用コンテンツの整備も実施した。

東京ビッグサイト 東ホール  
令和8年2月25日（水）-27日（金）

## Care Show Japan

超高齢社会の介護・医療・予防と、まちづくりのために

Care Show Japan / ケアショー・ジャパンは  
介護や医療、ヘルスケアに関連する4つの展示会で構成されるBtoB展示会です。  
新製品・サービスの展示、最新情報を紹介する講演プログラム等  
来場者の皆様に価値ある場・情報を提供し、  
超高齢社会における地域課題、社会課題の解決を目指します。

International KaiGO Festival が同時開催！



Care Show Japanは、経済産業省の下記プロジェクトの趣旨に賛同し、その活動を支援します。  
「OPEN CARE PROJECT」～介護を「個人の課題」から「みんなの話題」へ～  
「オレンジイノベーション・プロジェクト」～認知症当事者をつくる、誰もが生きやすい社会～



## 周知用コンテンツ

プロジェクト概要ポスター



採択企業ロゴ一覧ポスター



プロジェクトチラシ



サイト一覧ポスター



プロジェクト  
コンセプトムービー



コンテンツ配布ページ  
(経産省HP)

# 流通・販売に関する取組の実施

- ・ イオンリテール株式会社が2月25日に開設（予定）の「MySCUEマーケットプレイス」において、本プロジェクト参画企業の製品・サービスの周知・販売中。また、本プロジェクトから生まれた製品・サービスの販売に活用可能な「タグ」について1月より各採択企業での利用を正式に開始した。
- ・ 今後も流通・販売にご協力いただける企業・団体とともに販路開拓を図る予定。

## MySCUEマーケットプレイス



## タグ



※株式会社イトーヨーカ堂の協力のもと作成

# オレンジイノベーション・アワード2025 概要

- 本取組の認知拡大に向け、企業や団体等を対象とした表彰（オレンジイノベーション・アワード）を開催。
- 計25件の応募から、受賞企業を決定。2026年2月26日に表彰式を開催予定。



## オレンジイノベーション・アワードの概要

目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 認知症の人とともに、生活課題解決や、やりたいことの実現の助けとなる製品・サービスの開発が、さまざまな業界・領域にて推進され「当事者参画型開発」の認知が広がり、共生社会が実現されることを目指し、開催するもの。</li> </ul>
対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>製品・サービス部門</b>：認知症の人との共創のプロセスを重視して開発され、<b>すでに販売・提供開始しているユーザーフレンドリーな製品やサービス</b></li> <li>• <b>アイデア部門</b>：認知症の人との共創のプロセスを重視して開発を行っている最中で、<b>発売・提供開始前の製品・サービスのアイデア</b></li> </ul>
日程	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 応募締切：令和7年12月5日、表彰式：令和8年2月26日</li> </ul>
審査基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 製品・サービスの使いやすさ</li> <li>② 認知症の人との共創のプロセス</li> </ul>
賞の種類	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>製品・サービス賞、アイデア賞</b>：各部門において総合得点が最も高い企業</li> <li>• <b>特別賞</b>：審査基準①②の合計得点が高い企業</li> <li>• <b>本人賞</b>：本人審査委員の総合得点が最も高い企業</li> </ul>
応募総数	25件（製品・サービス部門17件、アイデア部門8件）

## 審査員

 国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 所長 <b>岩坪 威</b>	 特定非営利活動法人 イシュープラスデザイン 代表 <b>寛 裕介</b>	 フリーキャスター・介護福祉士 <b>駒村 多恵</b>	 株式会社HAKUHODO ITTENI取締役 戦略コンサルティング本部統括 <b>根本 豊</b>	 一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ 相談役理事 <b>藤田 和子</b>
 慶応義塾大学大学院 健康マネジメント研究科 教授 <b>堀田 聡子</b>	 かながわオレンジ大使（認知症本人大使） <b>前田 博樹</b>	 DAYS BLG! はちおうじ 代表 <b>守谷 卓也</b>	 一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ 代表理事 <b>山中 しのぶ</b>	 公益社団法人 認知症の人と家族の会 代表理事 <b>和田 誠</b>

# オレンジイノベーション・アワード2025 審査結果

- 製品・サービス賞は株式会社大翻、アイデア賞は神奈川県立横須賀高等学校・NTT人間情報研究所が受賞した。特別賞は、株式会社kittoi、ソリッドソニック株式会社、株式会社チヨダ、本人賞は神奈川県立横須賀高等学校・NTT人間情報研究所がそれぞれ受賞した。

## 製品・サービス賞

### 株式会社 大翻

迷わず履ける靴下 Unicks (ユニクス)



## アイデア賞・本人賞※

### 神奈川県立横須賀高等学校・

### NTT人間情報研究所

認知症にやさしい社会へむけたポジティブすごろく  
～認知症当事者の気持ちを知って、みんなで考えよう～



※アイデア賞と本人賞のW受賞

## 特別賞

### 株式会社kittoi

みんなにいい割烹着



## 特別賞

### ソリッドソニック株式会社

Vibone nezu 3 (バイボーンネズスリー)



Vibone Nezu 3

## 特別賞

### 株式会社チヨダ

CEDAR CREST スパットシューズ



**国立研究開発法人 日本医療研究開発機構**  
**「中等度・重度認知症の人とのコミュニケーション**  
**手法と共生社会実現に向けた研究開発支援調査」**  
**に関する報告**

# 今後の本取組の実施方針に関する検討

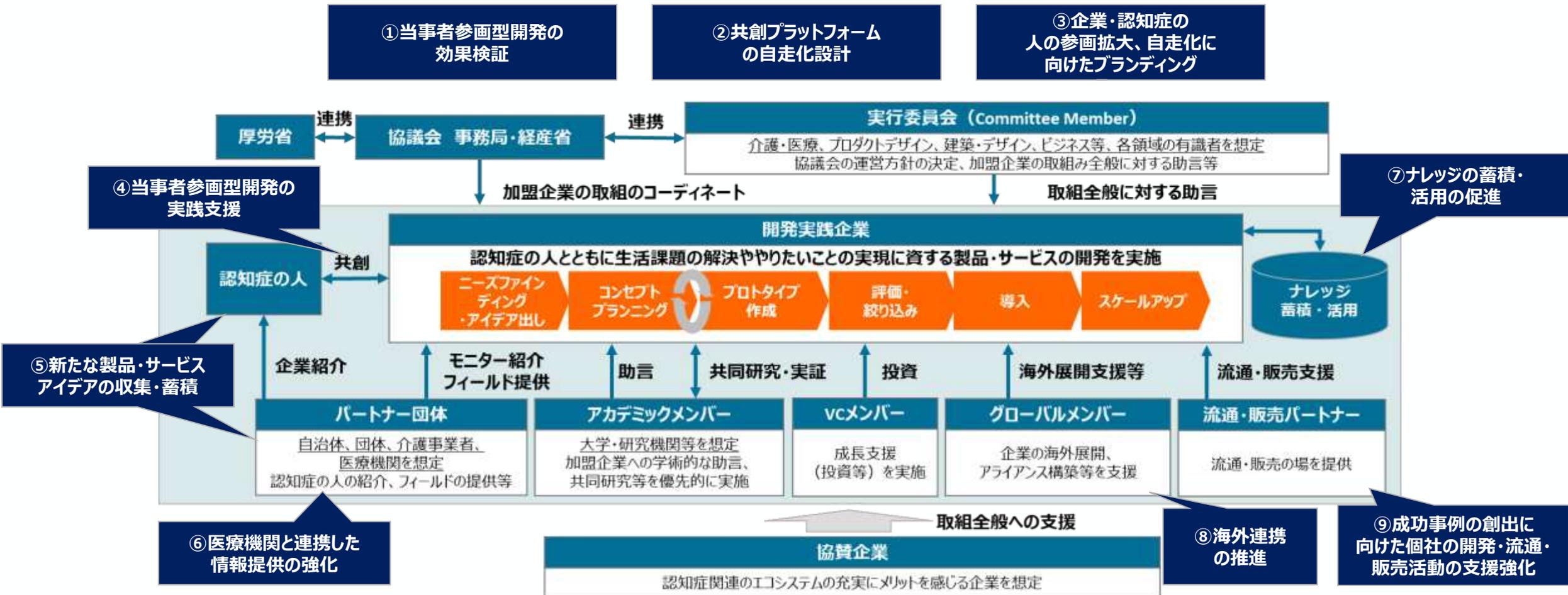
# 第1回WGにおける主なご意見

- 令和7年度の第1回イノベーションアライアンスWGで頂いた主なご意見は以下の通り。

テーマ	関連する委員ご意見（抜粋・要約）
新たな製品・サービスアイデアの収集・蓄積	<ul style="list-style-type: none"> <li>パートナー団体の拡大に関して、介護事業所について、意見を単発で聞くだけではなく、定期的にアンケートを取るなど関わりの幅を広げてはどうか。</li> <li>製品開発につなげるアイデアや知恵は現場に存在している。在宅や介護現場のケアマネジャー等に意見を聞くと、ヒントを得られるように思う。</li> </ul>
個社の開発活動の支援強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>小さな会社では工学系・デザイン系の専門家が社内に在籍していないこともあると考えられるため、工学系・デザイン系の専門家から助言が受けられると良いだろう。</li> <li>認知症の症状の段階に合わせて各段階では何が必要か、という視点が重要である。できるうちから色々なサポートをすると「過剰介護」となり、逆に何もできなくなる。その判断にあたっては、アセスメントが重要になる。「自立支援」という考え方を大切にする必要がある。</li> </ul>
海外展開戦略の具体化	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定の国に限定せずに、複数の国と並行して協議を行い、国ごとの特徴を理解した上で、戦略を立てられると良いのではないかと。</li> </ul>
医療機関との更なる連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後MCIの人々が増加する。MCIの方へのアプローチとして、自治体でのもの忘れ検診時や抗Aβ抗体薬を実施している医療機関での診断時のパンフレット配布を検討できれば良いのではないかと。</li> </ul>
「ナレッジデータベース」の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品・サービスの利用データの可視化を行うと良い。製品・サービスの利用状況や予防、生活改善の効果を横断的に収集し社会に示すことが、企業の参画の判断材料になる。</li> <li>認知症の人のニーズをデータベース化し、公開することで、認知症の人のニーズに関心を持つ企業が自発的に開発を進められるようになるのではないかと。また、データベース作成については研究の要素が強いため、一定の知見がある主体が推進すべきであろう。</li> <li>これまでのオレンジイノベーション・プロジェクト推進の過程で蓄積された声やアイデアを集約し、アクセスできるようにしてはどうか。企業が触発され・サービスや事業の可能性が生まれる。</li> <li>AIが読み込みやすい形式でノウハウを蓄積していくことを検討してはどうか。新しい企画の際に、生成AIがデータを読み込み、新しいアイデアを出すという世界もありうるのではないかと。</li> </ul>

# 次年度事業における注力事項の全体像

- 次年度は本プロジェクトの自走化に向け、①当事者参画型開発の効果検証・ノウハウ／事例整理、②共創プラットフォームの自走化設計、③企業・認知症の人の参画拡大、自走化に向けたブランディングに特に注力する。
- また、前述の第1回WGにおけるご意見等を踏まえた取組を推進する（④～⑨）。



# 次年度事業における注力事項の概要（1 / 2）

- 前頁の注力事項における具体的な実施事項は以下の通り。

## 次年度事業における注力事項（案）

### ①当事者参画型開発の効果検証

- これまでの成果を振り返り、効果と要因を整理して、次年度以降の設計改善と横展開に使える形で取りまとめる（必要に応じアカデミア連携）。

### ②共創プラットフォームの自走化設計（運営主体・マネタイズ等）

- 共創プラットフォームが自走するための運営主体、提供価値、収支（マネタイズ）をバックキャストで設計し、必要調査・検討を進める。
- 「共生」に加え、「予防※」等の観点も含め、検討範囲や機能の拡張も検討する。  
※「認知症になるのを遅らせる」「認知症になっても進行を緩やかにする」という意味

### ③企業・認知症の人の参画拡大、自走化に向けたブランディング

- 企業・認知症の人の関心喚起と参画拡大に向け、ブランディングと情報発信を強化する。
- 機運醸成に向け、令和9年度を目途とした自走を視野に入れた効果的なブランディングを実施する。

### ④当事者参画型開発の実践支援（募集・マッチング・伴走）

- 当事者参画型開発に取り組む企業および開発に参画する認知症の人等を募集し、スケジュールを踏まえた適切なマッチングを実施する。
- 運営面の調整・フォローも含めて伴走し、開発プロセスの実装を後押しする。

### ⑤新たな製品・サービスアイデアの収集・蓄積

- 認知症の人との対話を起点に、生活の困りごと・工夫・ニーズを継続的に収集し、開発に資するアイデアとして整理・蓄積する。介護事業所・医療機関等からも定期的に現場知を集め、専門職・家族等も巻き込んだ募集・整理・還元の仕組みを試行構築する。

# 次年度事業における注力事項の概要（2 / 2）

- 前頁の続き。

## 次年度事業における注力事項（案）

### ⑥医療機関と連携した情報提供の強化

- MCI（軽度認知障害）を含む早期段階の認知症の人や家族等への到達経路を拡張するため、医療機関等との連携を強化する。自治体のもの忘れ検診や、医療機関での診断時など、認知症の人や家族等が情報を必要とするタイミングで本プロジェクトの概要や創出された製品・サービスに関する情報等が届くよう、配布用パンフレット／チラシ等のツールを整備する。

### ⑦ナレッジの蓄積・活用の促進

- これまでの活動で蓄積された認知症の人の声、実践で得たノウハウや事例（進め方、留意点、つまずきどころ）、開発過程で得られた知見や成功・失敗要因を体系化し、企業等が活用できるナレッジとして整理する。
- 各社が差別化に用いる「競争領域」と、社会全体で共有すべき「協調領域（共通知）」を切り分け、協調領域は社会資源として蓄積・更新する運用設計を行う。また、将来的なアイデア創出支援への展開等を見据え、活用しやすい形式での整理を検討する。

### ⑧海外連携の推進（年度内の具体的連携事例の創出）

- 複数国を対象に制度・市場・文化的背景を整理し、優先国と展開方針を具体化する。現地の企業・研究機関・自治体・支援団体等と協働し、当事者参画型の実証や共同開発、販路・実装に向けた具体的な連携事例を創出する。日本発の取組としての強みを活かしつつ、国際的潮流との整合にも留意して展開方針を具体化する。

### ⑨成功事例の創出に向けた個社の開発・流通・販売活動の支援強化

- 参画企業が当事者参画型での開発を実装し、事業化・普及まで到達する成功事例を創出できるよう伴走支援を強化する。工学・デザイン等の専門性が不足しがちな企業には外部専門家の助言機会を提供し、企画・試作・評価の質を高める。併せて、流通・販売に向けた支援（販路候補の探索、流通事業者とのマッチング、等）を行い、社会実装につなげる。

# ご意見をいただきたい事項

- 「次年度事業における注力事項（案）」に記載の事項を効果的に進めるために実施すべき事項、連携すべき主体、留意すべき国内外の潮流等はあるか。
- 「次年度事業における注力事項（案）」以外に本取組の自走化・普及・拡大に向けて実施すべき事項があるか。